

市民の声

＝市民の声募集中＝

市政に思う

今回は大柿高校のみなさんに市民の声をお願いしました。
市民の声を募集しています。
《問い合わせ先》 議会広報特別委員会 ☎42-6310

「江田島市の魅力」

県立大柿高校1年
西岡 健人
(江田島中学校出身)



一般的に「江田島市」といえばカキのイメージが強いと思います。全国におけるカキの生産量の半数は広島県が占めており、その中でも江田島市のむき身カキの生産量は日本でも有数です。また毎年冬には「江田島市カキ祭」や「かきカキマラソン」のように、カキにちなんだイベントが催されていることから、そのことが言えると思います。しかしカキの他に「江田島市といえば」という質問をされたとき、その答えがなかなか思い浮かばないという人は多いと思います。

と、あまり行われていないと感じます。日本におけるオリーブの名産地といえば、香川県の小豆島です。小豆島ではどのような取り組みが行われているのかが気になり、インターネットで調べてみました。すると小豆島では「収穫祭」や「オリーブマラソン」というようなイベントが大々的に行われているようです。江田島市でも収穫祭やオリーブオイルを

使った料理を振る舞うというイベントを企画してほしいと思います。そうして江田島市の魅力はカキだけではないということアピールしてほしいと思います。



「江田島市に住んで思うこと」

県立大柿高校1年
松崎 麗
(江田島中学校出身)



私は生まれてから16年間、江田島市に住んでいます。今まで生活してきた中で、私が江田島市について感じたことを書きたいと思います。まず江田島市で生活している率直に感じるのは、江田島市には不便な所があります。例えばバスの本数がかかり少ないところです。中学生の時、部活動が長引いた時などバスに乗ることができず、一時間ずっと待っていたという

うことがありました。私は現在高校で部活動をしていますが、今後もバスの時間で困ることがあると思います。そこでバスの本数を増やして、より学校に通いやすいようにしてほしいと思います。他には欲しい物が手に入りにくいところも不便だと感じます。例えば新刊が発売されたとき、書店に行くとは体売られていません。洋服を売っているところも少ないと思

が行われますが、その際人と人とのつながりの深さをいつも感じます。自然は勿論のこと、江田島市で暮らす人たちは皆温かく素晴らしいと思います。私が高校を卒業した後、江田島市で暮らすかはわかりません。しかし成人式だけは絶対江田島市でやりたいと思います。そのためにも江田島市はこれからはずっと元氣な市でいてほしいと思います。

「江田島市の人口減少」

県立大柿高校1年
永松 美優菜
(能美中学校出身)



以前テレビのニュース番組で、日本の出生率の低下が取り上げられていました。中学校の社会の授業でも習いましたが、日本の人口は減少傾向にあるようです。その時は、江田島市ではどうだろうかと気が気になりました。すると江田島市の総人口の推移も年々下がっていることがわかりました。私自身江田島市の中で暮らしていて、

鳥の人口が少ないと感じることが多々あります。そこで私は江田島市には、より多くの人たちが暮らす楽しい市になるよう取り組んで欲しいと思います。例えば、空き家になっていく建物をきれいに整備して、移住者向けに安く提供してほしいと思います。すでにそのような活動をされているとは思いますが、より大々的に江田島市のアピールをして、移住者を

受け入れて欲しいと思います。他にも鳥コンなど、出会いの場を設けるイベントを行って欲しいと思います。そうして少しずつでも有名になっていけば良いと思います。その他にも、江田島市の統計を見ると少子高齢化の傾向が強いことがわかりました。若い世代の人たちが減れば減るほど、江田島市を支えることが難しくなると思います。そのためにも、移住者の

「江田島市の学習環境」

県立大柿高校1年
岡崎 千愛
(大柿中学校出身)



私は江田島市に、学生が勉強に取り組みやすい環境のある市になって欲しいと思います。私が中学生の時には、家で宿題をするくらいで、普段ほとんど勉強らしい勉強をしていませんでした。それに学習塾などに通っていませんでしたので、休日もほとんど勉強をしていかなかったと言えます。大柿高校に入学してから、私は「おおがき塾」という公営塾に通い

始めました。私は中学生の時と比べて、勉強とそれ以外の切り替えがきちんとしてくれるようになりました。先生に教えて頂いたり、友人同士で教え合ったりすることもできるので、勉強に取り組みやすくなったと思います。もし私が中学生だったときに、近所に安い塾があれば、部活動との兼ね合いも考慮して、毎日は無理でもその塾に通っていたと思います。

だから私は中学校にも大柿高校のような公営塾が出来れば良いと思います。そうすれば私の後輩たちもより気軽に勉強に取り組みできるようになると思います。それに、もし中学校と高校の塾が近ければ、中学生と高校生との交流の機会が生まれ、勉強の息抜きが出来たり、悩みを相談しやすい関係が築けるのではないのでしょうか。勉強に取り組みやすい環境のある市に

